

## 令和4年度第3回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和4年11月15日(火)18:00~20:00  
II. 場 所：Zoom 会議室  
III. 出席者：角田担当理事兼総括委員長、大原主査、片岡委員、中村委員、佐渡友委員、竹内委員、  
及川委員、児島委員、服部委員  
事務局：井端事務局長、山田職員

### IV. 検討事項

#### 1. ビデオ試問試作例の更新版について

ビデオ試問試作例の試問内容、試問の多様化を中心に、5分野(法学分野、工学分野、栄養学分野、経済学分野、歯学分野)の更新の有無を確認した結果、法学分野、工学分野、栄養学分野(一部表現修正)は令和3年度コンテンツと同様に試問の多様化は行わないことを確認した。

経済学分野は、試問の多様化が明確になるようレベル1として、仮想地域の課題・問題点をあげ、課題に対して解消方法を示すことができる。レベル2として、いくつか課題について挙げることができる。レベル3として、実現可能性ある解決策の費用対効果・限界を説明できるに直すことにした。

歯学分野は、レベル1として、口腔の課題とその根拠をあげることができる。レベル2として、口腔以外の全身状態・心理・社会的・経済的背景から解決策をあげることができる試問とし、批判的思考力と問題発見・課題設定・解決力の達成度をはかることにした。

#### 2. ビデオ試問コンテンツの作成要領・ガイドについて

ビデオ試問コンテンツの作成要領・ガイドで特に検討した点を以下に整理した。

- ① 「2. ビデオ試問コンテンツの作成方法、④試問の多様化への配慮」として、学生の思考力等の水準に合わせて振り返りを段階的に積極化できるよう、能力要素の到達水準に配慮した試問を複数設け、学生に試問の選択を可能にする方法があることを紹介する。

例えば、点検・評価する能力要素が複数ある場合、「問題発見・課題設定・解決力」と「科学的な考察力」を組み合わせた試問などでは、二つの能力要素のルーブリック5, 3, 1の段階に応じたスキルを織り交ぜた試問とする。また、能力要素が一つの試問「論理的思考力」などの場合には、ルーブリック5, 3, 1の段階に応じた試問とする。

- ② 「3. ビデオ試問の仕組みと点検・評価の仕方」として、能力要素の「点検・評価の基準」に○を付けたレベル(5~0)を能力要素ごとに集計し、事前に策定したルーブリックの重み付けを行い、各能力要素の点数を合計する。なお、評価者は公平性を期して3人とした。

例えば、点検・評価の能力要素が3つの場合に「論理的な思考力」4割、「問題発見・課題設定・解決力」4割、「価値創造力」2割などの重み付けしたとして、ルーブリックの能力要素ごとの到達度基準の項目に○を付けた個数に応じた点数に重みづけの割合を乗算し、3つの能力要素の点数を合算して「到達度レベル5」の満点(5×3=15)で除して到達度を算出する。評価者は3人としたので、3人による能力要素別点数を合算して平均化する。

資料では、能力要素が3つの場合の例示としていたが、能力要素が1つの場合も例示することにした。

また、点検・評価結果の大学へのフィードバックの仕方は、3人の評価者による能力要素別データと平均点及び満点に対する到達度の数値を学生個人別に表示するシステムを検討することにした。

#### ③

パイロット化に向けたモデル構想の運営方法について

### 3. その他（次回検討事項の確認等）

次回は、11月15日(火)午後6時とし、5分野のビデオ試問コンテンツ試作例修正版の確認を中心に行うとともに、パイロット化に向けたモデル構想の運営方法について検討することにした。